

3 GOOD HEALTH
AND WELL-BEING

〈目標 3〉 健康と福祉

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

目標 3 の主な内容

- すべての国の人が質の高い医療を受け、薬やワクチンを得られるようにする。
- 有害化学物質や大気・水質・土壌汚染による死者・疾病者の数を大幅に減少させる。
- 非感染性疾患による若年死亡率を3分の1に減少し、精神保健や福祉を促進する。
- 家族計画や性教育、性と生殖に関する健康に関する知識やサービスを広める。
- 薬物乱用やアルコールの有害な摂取を含む、物質乱用の防止・治療を強化する。

問題の背景

- 2012年の世界の人の死因の約4分の1は、大気や水、土壌などの汚染といった環境因子によるものだったと言われています。
- 保健サービスなどの向上により、1990年以来、1日当たりの子どもの死者は17,000人ほど減少しました。けれども、現在も毎年600万人を超える子どもが、5歳の誕生日を迎える前に命を落としています。
- 開発途上地域では、推奨される医療を受けられる女性が全体の半分にすぎません。

世界の主な環境・公害問題

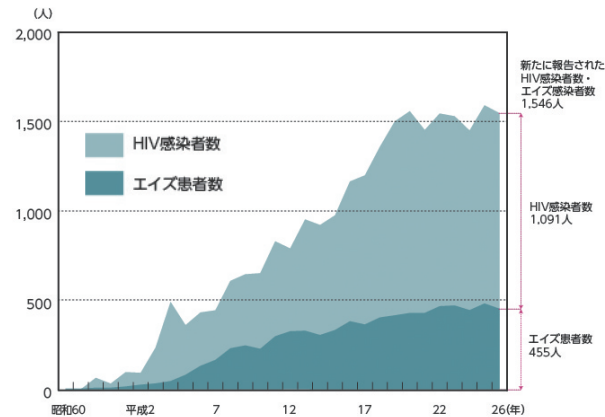
地域	主な環境問題・公害問題	
アフリカ	・土地の劣化(特に、森林、淡水域、海水域、海岸における様々な影響) ・干ばつ、渇水	・気候変動 ・都市化の進行
アジア太平洋地域	・大気汚染、交通問題 ・淡水の不足、土地の農地転用による影響	・廃棄物管理に係る諸問題
欧州	・気候変動、エネルギー問題 ・大量生産、大量消費 ・大気汚染、交通問題	・生物多様性の損失 ・土地利用の変化、淡水の不足
中南米	・都市の肥大化 ・生物多様性、エコシステムの喪失	・海岸の環境悪化、海域の水質劣化 ・気候変動
北米	・気候変動、エネルギー問題 ・都市のスプロール化	・淡水の不足
中東	・淡水の不足 ・土地の劣化 ・海岸の環境悪化、海域の水質劣化	・都市化の進行 ・安全性
極地域	・気候変動 ・継続的な汚染	・オゾン層の破壊 ・開発、商業活動の進行

(UNEP「地球環境概況第4次報告書」より、環境省作成)

日本の状況

- 高齢化の進展により、社会保障給付費は増加しています。国民医療費は2008年度の34.8兆円から、2025年には52.3兆円、老人医療費も11.4兆円から、24.1兆円にまで増加する見通しです。
- 精神疾患により医療機関にかかっている患者数が増加しています。
- 近年、大気汚染物質である光化学オキシダント濃度が全国的に上昇しています。その原因は、アジア地域から流れ込む汚染物質の可能性が高いと考えられています。

HIV感染者数・エイズ患者数の推移



HIV感染者・エイズ患者の数は日本でも増加傾向にあり、新たに報告される感染者数・患者数は年間1,500人を上回っています。

(政府広報オンライン掲載「厚生労働省エイズ動向委員会報告」からの作成資料)



地域からのヒント

公害の教訓を伝える活動をつなぎ、公害学習の学びの環を広げるために、2013年「公害資料館ネットワーク」が結成されました。公害は昔のことと考えられがちですが、問題の解決には長い年月を要し、現在も訴訟が続いていたり、地域にリスクを抱えたままの地域も少なくありません。行政、企業、学術機関や市民団体らが共に学び、解決や再発防止に向けた行動が生まれることが期待されます。



四日市市でのフィールドワーク
(写真提供:公害資料館ネットワーク)